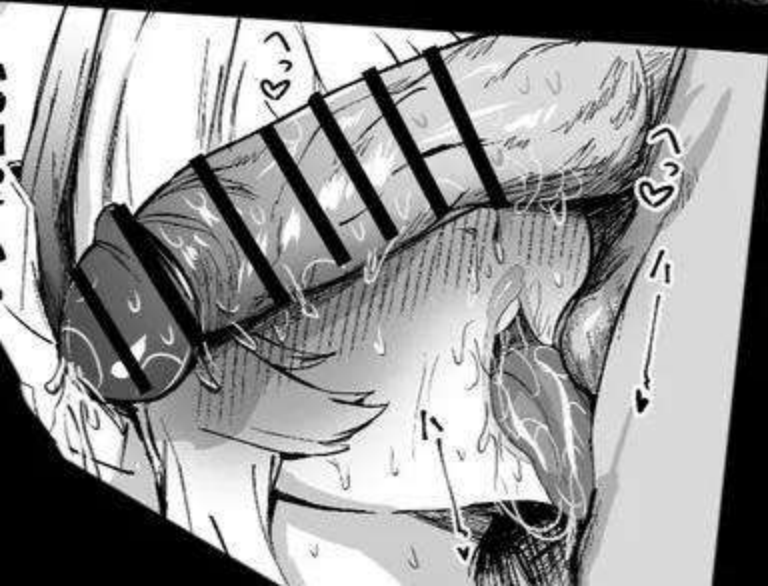




どすけバーノア 1~8ページ



だから

見てみたら



その日、シャイレの
部室の奥から
変なニオイがした



ノアと先生が
交尾していた

あー

だめ

ハッ

ハッ

ハッ

先生は
戦利品を
自慢するように

ハア

はい

はい

ハア

はい

全身から
発情したニオイを
放っている
ノアを
私に見せつけてきた

ノアと目が
合ったけれど
ノアは私を
見ていなかった

その時、ノアは既に
もうどこか遠くへ
行ってしまったのだ
という無力感が
私を襲った

それ以降も先生は
いつも通りの様子で
私と接してきた

そしてノアも…
何事もなかった
かのように…

「やめてよ!!」

私はそう叫びそうになった
本当に信じられない…

さっきまで
先生のおち○ちんを
美味しそうに
しゃぶっていた口で
「ユウカちゃん」
なんて言わないでよ

どうして
そんな風に
私に接することが
できるの??

先生は
ノアを
調教していた

ノアは
命令されて
いつも嬉しそうに
おち○ちんを
頬張っている

どうやら
最初から
私に見せつけるのが
目的だったらしい



私の知っている
ノアはこんなに
卑しい娘じゃない…





ノアはどんどん
先生の調教に
のめり込んでいき

普段の落ち着いた
ノアからは
想像がつかないような
変な汚い声を
上げていた……



私たちの日常が
壊れていく音が
聞こえた
ような気がした

ノアが毎日
目の前で
壊されていく光景を
私はただ呆然と
見ているしかなかった

ドキッ

ドキッ

ドキッ

ドキッ

あー♡

あー♡

クッ

クッ



私にはない
その肉棒を見る
ノアの
愛おしそうな目……

いつも布越しに
見ていた
ノアのお尻が……

ああ

ああ

ズン

ズン

ぽん

ぽん

先生に何度も
押しつぶされて
跳ね回り
イビツな形に
なっている

ノアは
黒い衣装を着せられ
先生の身体の上で踊り
うれしそうに
液体をまき散らす

書記として
主観なく
記録することが
仕事のノア……

そのノアの
性感帯の記録が
先生によって次々と
上書きされていく

